



大明小学校

校長室から

令和元年9月10日

No. 26

文責 校長 飯久保一男

運動会へ向けて

先週から運動会特別日課が始まりました。練習の最初にあたり、私から全校の子どもたちに話す機会をもらいましたので、次のような話をしました。概要です。

一つだけ、話をします。それは「カッコいい」とはどういうことだろうということです。顔がいいとかスタイルがいいとかそういうことではありません。今、皆さんは私の話を聞いていますが、今、カッコいいというのはどんなことでしょうか。体育座りをして、私の方を見ている人がカッコいいと思います。運動会で、競技をしたときにビリになってしまいました。最後の人があきらめて全力で走っていません。これはカッコいいことですか。違いますよね。今、皆さんは座っていますが、この後、立つことになると思います。立ったときにお尻についた砂をパンパン払うことはカッコいいと思いますか。私は、払わずにいい姿勢で立つて待つことのできる人がカッコいいと思います。このように、今どうすればカッコいいのかを考えて練習や運動会の本番を取り組んでほしいと思っています。これからの練習や運動会本番でみなさんのカッコいい姿をたくさん見たいと思います。がんばってください。

例えば、組立体操で、高学年生が地面に寝そべり、砂だらけになっても動じず、次の技へと向かう姿などは最高にカッコいい瞬間です。子どもたちの真剣な姿を見るだけで感動する、そんな運動会になってほしいという願いを込めて話をしました。

楽しさと規律、そして主体性

運動会の1日は、子どもたちにとっても、保護者の皆さん・地域の皆さん、ご参加いただける皆さんにとっても楽しい1日になればと思います。

本校の運動会は次の3つの大きなねらいがあります。

- 1 運動の「楽しさ」を知り、関心を高める
- 2 子どもたちの「主体的取り組み」を重視し、自主性・創造性を高める
- 3 集団の「規律」ある行動を通して、責任・協力・自立の態度を育てる



楽しさについて

6年生の修学旅行のときも、5年生の林間学校のときも、子どもたちに「楽しいってどういうことだろう」という話をしました。与えられる楽しさではなく、おもしろおかしい楽しさでもなく、「つくり出す楽しさ」を学んでほしいと伝えました。子どもたちにとって、運動会の楽しさも同じことがいえると思っています。教師がお膳立てした中で楽しむのではなく、自分たちで楽しさをつくり出してほしいと思います。

また、運動の楽しさには、次の4つがあるといわれています。

- 体を動かす楽しさ ○わかる楽しさ ○伸びる楽しさ ○集う（関わる）楽しさ

さらに、次のことをあげる教育者もいます

- 今までできなかったことができるようになっていく達成感
- みんなで協力する充実感
- 勝敗で感じる嬉しさ、悔しさ

集団での演技や競技が中心の取り組みとなりますので、すべてを実感することは難しいことではありますが、学級や学年の体育では実現できないこと＝全校や色集団が集い、関わり、みんなで協力する充実感を味わい、そのうえで勝敗に一喜一憂していく…、こんな1日が過ごせたら楽しいだろうと考えています。

規律について

ルールを守ってこそスポーツは楽しくなります。さらに、集団で生活するのにも、ルールが必要です。ルールを「規律」と言い換えることもできます。日本人は古来より、特にこの規律を重んじてきました。日本人にとっては当たり前のことですが、何かを待つときに整然と並んで待つ姿が、外国の人からは驚きの目で見られることがあるようです。しかし、それゆえに、東日本大震災や様々な災害が起きたというとてもない状況でも、日本では、暴動も起きず、備蓄品を整然と並んでもらい、人々のことを思いやって乗り越えてきているのだと感じます。

運動会は、この規律が形としてわかりやすく表れる機会です。整列したときの姿、話を聞く態度、応援の様子…などを見れば、ピシッとしているかどうかはすぐにわかります。全校が集合し、整列したときに、乱れずにまっすぐに等間隔で並んでいけば見事です。整列するためには次の2通りの方法があります。

- ①教師の号令のもと並ばせる
- ②子どもたちが「主体的」に並ぶ

手っ取り早く整列させるには、①の方法をとれば見栄えよくできます。私などの押しの強い教師が「並べ！」



と怒鳴れば子どもたちは嫌々ながらも整列します。しかしこれではねらいを達成できません。②のように、子どもたちがきっちり並ぼうと思って整列することをめざすことで、ねらいが達成できるのです。見栄えは、①の方がいいかもしれません。②では、曲がってしまったり、間隔がまちまちになってしまったりする場合があります。6年生を中心に、整列することなどにも取り組んで、かっこよく並べるといいなあと思っています。

主体的取り組みについて

まだ入学して半年経たない1年生から、半年後には中学生になる6年生まで、6歳から12歳という年の差のある子どもたちが一緒に活動する小学校の運動会です。6年生を中心に子どもたちが「主体的」に取り組んでいます。6年生の苦勞がわかっているだけでしょうか。まだまだ暑い中ですが、前述の「規律」の中での「楽しい」運動会とするために、子どもたちは取り組んでいます。教職員はそれを支援していきます。これらのことを理解いただき、子どもたちの様子をご覧いただけたらと思っています。

**楽しいからラグビーをやるんであって、
わざわざ苦しむためにやりたいとは思いませんよ。**

平尾 誠二（元ラグビー日本代表選手）



私は、長いこと、平日の夜や土日をつぶして、ミニバスケットボールのスポ少の指導をしてきています。
「大変ですね」と言われますが、そうは思いません。好きだからやっているわけで、楽しんでいるのです。